

令和 6年度

環境経営レポート



対象期間 : 令和 5年10月1日～令和 6年 9月30日

発行年月日 : 令和 6年10月 8日

蒲野建設株式会社

目 次

1 環境経営方針	1
2 事業概要 & 認証登録範囲	2
3 実施体制	3
4 環境経営目標	4
5 環境経営計画	5
6 環境経営目標の実績	6
7 環境経営計画の取組結果とその評価、次年度以降の取組内容	7
8 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価並びに違反、訴訟等の有	8
9 代表者による全体評価と見直し結果	8
10 情報公開事項	9

1 環境経営方針

《環境理念》

蒲野建設(株)の理念は、「経営力及び技術力を練磨し、顧客に信頼される品質を提供し、地域社会の安定に貢献する。」です。

当社は、地域社会の安定には、この地域の美しい自然環境を将来世代に引き継いでいくことが、重要であることを認識し、自然環境に配慮した建設業、砕石業、産業廃棄物処分業・収集運搬業を通じて、地域の環境保全に寄与してまいります。

私たちは、全ての事業活動に際し、環境負荷の低減及び環境保全活動に、自主的・積極的に取り組み、継続的な改善をすることを誓約します。

《行動指針》

1、事業に使用する重機・車両・設備は、省エネ・低環境負荷タイプを適切に使用して、環境に配慮した工事を実施します。

- * 低騒音・振動工事
- * オイル等の流出防止
- * 粉じん及び廃棄物の飛散、汚水流出の防止
- * 廃棄物及び建設副産物の適正処分及び、リサイクルの実施
- * 生物多様性を考慮した企画の提案

2、エコ製品、エコ工事、廃棄物の適正処分等を、お客様に役立つ情報を提供できるように、取組や教育を通し社員の資質を高めます。

3、建設副産物の積極的利用、社内における省資源、省エネ、節水及びグリーン調達に努めます。

4、事業活動に関連する法規制等は、確実に遵守することを誓約いたします。

5、地域活動、環境保全活動への参加、環境活動レポートの公表など、地域との環境コミュニケーションに努めます。特に、災害対応・除雪等に迅速に対応するため重機・車両・設備の整備・管理を徹底します。

制定日：平成30年7月30日

改定日：令和 4年10月1日

蒲野建設株式会社

代表取締役社長

蒲野 敦

2 事業概要 & 認証登録範囲

1 名称及び代表者名
 蒲野建設株式会社
 代表取締役社長 蒲野 敦

2 所在地

本 社 岩手県久慈市山形町川井第9地割32番地2
 砕石場 岩手県久慈市山形町川井第5地割26番地6
 処分場 岩手県久慈市山形町日野沢第4地割78番地34他
 整備工場 岩手県久慈市山形町日野沢第5地割1番地2
 中間処理場 岩手県久慈市山形町日野沢第5地割1番地2
 大川目事務所 岩手県久慈市大川目町2-24-15

3 環境管理責任者及び担当者連絡先
 環境管理責任者 代表取締役社長 蒲野 敦 TEL: 0194-72-2211
 担当者 環境保全部長 和蛇田 教夫 TEL: 0194-72-2211

4 事業活動の内容

土木工事業、建築工事業、とび・土工工事業、管工事業、鋼構造物工事業、舗装工事業、しゅんせつ工事業、塗装工事業、防水工事業、水道施設工事業、解体工事業、産業廃棄物収集運搬業、産業廃棄物中間処理業、産業廃棄物最終処分業、砕石業

5 事業規模

資本金	40	百万円	令和4年度	令和5年度	令和6年度
建設業	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
期間	2020年10月1日～2021年9月30日	2021年10月1日～2022年9月30日	2022年10月1日～2023年9月30日	2023年10月1日～2024年9月30日	2024年10月1日～2025年9月30日
公共事業受託 百万円	660	576	538	194	
民間事業受託 百万円	282	19	32	324	
廃棄物受託量					
産業廃棄物収集運搬 t	1,459	366	929	1,468	
産業廃棄物中間処理 t	5,226	2,361	1,462	997	
産業廃棄物最終処分 t	10,458	8,700	9,235	9,180	
砕石量(再生品等販売) t	61,560	29,052	25,336	20,778	
再生砕石 t	-	-	-	-	

項目	本社	砕石場	処分場	整備工場	計
従業員	42名	4名	4名	2名	52名
敷地面積	5,171.52m ²	160,698m ²	14,558m ²	1,863m ²	21,753.218m ²
延べ床面積	493.13m ²	-	-	153m ²	646.13m ²

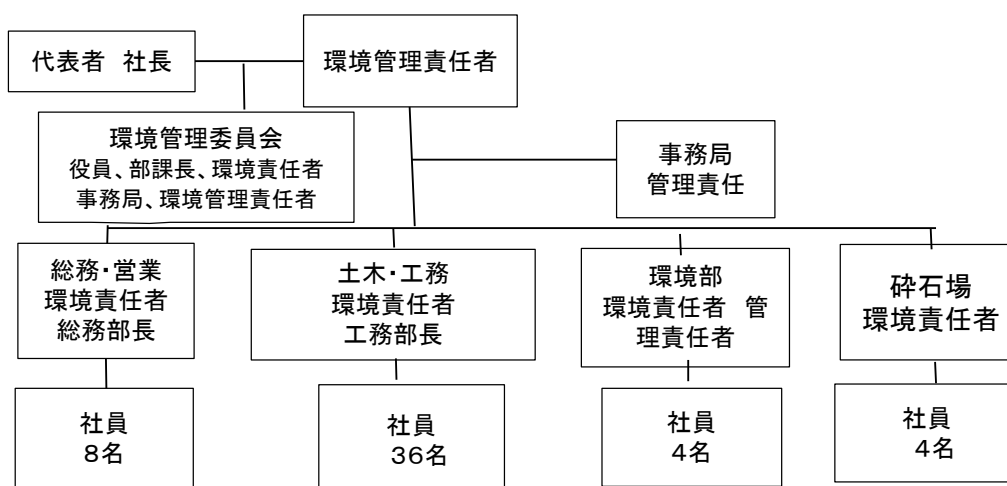
6 認証登録範囲
 本社、砕石場、中間処理場・整備工場、最終処分場、大川目事務所

7 社歴

昭和42年1月: 蒲野建設、岩手県知事登録業者
 昭和47年9月: 蒲野建設株式会社組織変更(資本金200万円)
 昭和52年1月: 岩手県知事許可(特定)土木工事業、以後、舗装・建築・とび土工・水道施設・管鋼構造物・しゅんせつ・塗装・防水工事業
 平成3年12月: 代表者変更(蒲野政蔵氏から蒲野秀雄氏)
 平成7年12月: 資本金の増資(資本金4000万円)
 昭和57年4月: 砕石業者登録
 平成元年5月: 岩手県産業廃棄物処分業、収集運搬業許可
 平成7年1月: 岩手県産業廃棄物処分業変更許可、中間処理による破碎処理許可
 平成28年1月: ISO9001:2015登録
 平成28年8月: 青森県収集運搬業許可
 平成30年7月: 岩手県知事(特-30)解体工事業許可
 令和2年10月: 代表者変更(蒲野秀雄氏から蒲野敦氏)

3 実施体制

1 組織



2 役割・責任・権限

	役割・責任・権限
代表者（社長）	・環境経営に関する統括責任。
	・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備。
	・環境管理責任者を任命。
	・代表者による全体の評価と見直しを実施。
	・課題とチャンス の明確化
	・実施体制の構築
	・環境経営方針を定め社員に周知する。
環境管理委員会	・委員長は社長とし、環境管理責任者が召集する。
	・環境管理責任者の提案を審議し、決定事項を環境責任者は各部門で実施する。
	・内部監査の代りに、計画の進捗状況・ガイドラインへの適合状況を審議し、不適合・不具合がある場合は代表者、環境管理責任者には是正を勧告する。
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理。
	・環境活動の取組結果を代表者及び環境管理委員会へ報告。
環境事務局	・環境管理責任者の補佐。
	・環境関連の外部コミュニケーションの窓口。
	・環境経営レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付）
	・取組データの集計、取りまとめ及び文書記録類の管理。
環境責任者	担当部門について環境経営システムを実施し、維持する。
	・省資源、省エネ、節水等の奨励・実施・確認・是正。
	・従業員に対する教育訓練の実施
全社員	・環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚し、能力向上に努める。
	・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加。

4 環境経営目標

1 主な環境負荷の実績

表1、主な環境負荷等の実績

項目	単位	2021年度	2022年度	2023年度
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	1,765,532	1,175,051	898,357
購入電力使用量	k w h	85,839	81,674	60,454
※使用した排出係数	k g - C O 2 / k w h	0.545	0.522	0.522
ガソリン使用量	L	71,970	57,159	54,429
軽油使用量	L	580,604	372,604	271,972
灯油使用量	L	10,645	8,778	7,971
廃棄物排出量（自社）	t	946	721	531
産業廃棄物排出量	t	946	721	531
一般廃棄物排出量	kg	1,500	6,620	1,970
建設副産物リサイクル率向上維持	%	85.73	67.59	91.9
総排水量	m ³	177	188	220
環境配慮工事	件	32	32	32
環境苦情	件	0	0	0
顧客への提案・情報提供 5 件維持	件	0	0	0
グリーン調達	品種	10	10	10

注:排水量の測定はしていないので、水使用量から散水量を削減して求めた。

2 環境経営目標の設定

当社では、2022年度を基準年度として中期及び単年度の環境目標を、それぞれ表2のとおり設定し、環境経営計画に取り組んでおります。

表2 環境経営目標

項目	基準年度実績値		中期目標(内単年度目標)		
	実績値	単位	2023年度	2024年度	2025年度
二酸化炭素排出量	1,175,051	kg-CO ₂	1%削減	1%削減	1%削減
購入電力使用量	81,674	kwh	1%削減	1%削減	1%削減
ガソリン使用量	57,159	L	1%削減	1%削減	1%削減
軽油使用量	372,604	L	1%削減	1%削減	1%削減
灯油使用量	8,778	L	1%削減	1%削減	1%削減
廃棄物排出量(自社)	721	t	1%削減	1%削減	1%削減
産業廃棄物排出量	721	t	1%削減	1%削減	1%削減
一般廃棄物排出量	6,620	kg	1%削減	1%削減	1%削減
建設副産物リサイクル率向上	67.59	%	リサイクル率向上	リサイクル率向上	リサイクル率向上
総排水量	188	m ³	1%削減	前年維持	前年維持
環境配慮工事	32	件	32	32	32
環境苦情	0	件	0	0	0
顧客への提案・情報提供 5 件維持	0	件	5	5	5
グリーン調達	10	品種	10	10	10

注:購入電力の二酸化炭素排出係数は環境省報道発表(R5.7.19)の東北電力の調整後排出係数 0.522kg-CO₂/kwhを使用。

建設副産物は、工事案件により、副産物の発生内容が異なるため、数値目標は設定できない。

建設副産物は過去の事例から、廃プラスチック類(大型土のう袋)、木くず、金属くず(缶類)、がれき類を想定。

5 環境経営計画

当社では、環境経営方針に基づき二酸化炭素、廃棄物、水使用量を削減し、環境目標を達成するため、従業員が一丸となって省エネルギー、廃棄物の削減・リサイクル及び節水等に取り組んでおります。取組の実施状況の評価結果は、表3のとおりです。

表3 主な環境経営計画の内容

項目	取組内容	
二酸化炭素排出量の抑制	照明	会議室、給湯室、社員用トイレ、倉庫等の不必要な時は消灯する取組は、ほぼ定着しつつある。
	冷暖房	使用していない部屋は、空調を停止している。
	節電	退社時は、OA機器の待機電源を切る。
	車輛その他	車両のエコドライブを実施する。 規制重機のエコ運転を実施する。
廃棄物の排出抑制	一般廃棄物	使用済の封筒を再利用する。分別を徹底する。 分別した紙ごみは、再生資源業者に引き渡し、リサイクルする。 個人情報等を含んだ書類はシュレッダー処理を行うが、シュレッダーする前に分別を行う等。
	産業廃棄物	廃棄物の中間処理場・最終処分場を定期的に点検する
節水・排水	用水・排水	工事濁水などによる水質汚濁の防止に取り組む。
建設副産物リサイクル率向上	リサイクル率向上を目指す、工事案件毎に排出物の相違があるので目標値を数値で設定することは困難である。現場作業では排出物の分別を実施する。がれき類は、概ね30センチに砕く。	
環境配慮工事	河川災害工事に環境保全型ブロックを使用する。	
環境苦情	苦情件数が0件を維持するように、発生防止のために関係者とのコミュニケーションに努める	
顧客への提案・情報提供5件維持	5件を維持するため、新しい工法や環境に配慮した取り組み情報を入手。	
グリーン購入	事務用品は、出来る範囲でグリーンマーク付きを購入する。	

6 環境目標の実績

当社では、環境目標の達成状況の確認・評価を行いました。

今回は、エコアクション21の2023年度実績についての評価結果を報告いたします。

(以下、評価結果等について簡潔にコメントする)。

表4 当該年度の環境目標の達成状況等

項目	単位	基準年	当該年度			環境目標の達成状況
		実績値	削減(増加)	目標値	実績値	
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	1,175,051	1%削減	1,163,300	898,356	達成
購入電力使用量	k w h	81,674	1%削減	80,857	60,454	達成
ガソリン使用量	L	57,159	1%削減	56,587	54,429	達成
軽油使用量	L	372,604	1%削減	368,878	271,972	達成
灯油使用量	L	8,778	1%削減	8,690	7,971	達成
建設副産物リサイクル率 向上維持	%	67.59	向上	向上	91.90	達成
産業廃棄物排出量	t	721	1%削減	714	531	達成
一般廃棄物排出量	kg	6,620	1%削減	6,554	1,970	達成
総排水量	m ³	188	1%削減	186	220	未達成
環境配慮工事	件	32	取組します	32	32	達成
環境苦情	件	0	0	0	0	達成
顧客への提案・情報提供5件維持	件	0	取組します	5	5	達成
グリーン調達	品種	10	-	10	10	達成

注 2022年度実績を基準年とする。

環境活動の状況



草刈作業
遊休農地の草刈り作業状況



オンラインによる工程会議で、
全部署に緊急時フローの説明を
した。

7 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度以降の取組内容

1. 取組結果の評価

表5 主な環境活動計画の内容と取組結果

項目		実施状況の評価	達成度	次年度の取組内容
二酸化炭素排出量の抑制	照明	会議室、給湯室、社員用トイレ、倉庫等の不必要な時は消灯する取組は、ほぼ定着しつつある。	△	人感センサーの設置も検討。
	冷暖房	使用していない部屋は、空調を停止していないことも見受けられ社長から都度注意された。	△	現状のままを続行。
	節電	退社時は、OA機器の待機電源を切り忘れたが数度見受けられた。	△	個人毎の確認が必要。
	車両その他	車両のエコドライブは実施された。規制重機のエコ運転を実施された。	△	継続する。
再資源化	建設副産物リサイクル率向上維持	リサイクル率向上をを目指す、工事案件毎に排出物の種類に相違があるので目標値を数値で設定することは困難である。がれき類は、概ね30センチに砕いて持ってきていただくことを依頼している。	△	リサイクルできないものが混入しないように、また、概ね30センチに砕いて持ってきていただくことを排出者に依頼する。
廃棄物の排出抑制	一般廃棄物	使用済の封筒を再利用する。分別を徹底する。分別した紙ごみは、再生資源業者に引き渡し、リサイクルする。個人情報等を含んだ書類はシュレッダー処理を行うが、シュレッダーする前に分別を行う。車内用には使用済の封筒を再利用された。	△	徐々に対象を増やす。
	産業廃棄物	廃棄物の中間処理場・最終処分場を定期的に点検し、適正な処分を確認した。	△	毎日点検の頻度を上げる。
節水・排水	用水・排水	工事濁水などによる水質汚濁の防止に取り組み、クレームゼロを達成した。	△	公共工事がメインなので重点的に取り組む。
顧客への提案・情報提供5件維持		5件を維持し、達成した。	△	徐々に対象を増やす。
グリーン購入		事務用品は、できる範囲でグリーンマーク品を購入。	△	徐々に対象を増やす。

○:評価できる、△:まずまず評価できる、×:評価できない

2. 次年度以降の重点取組み

2023年度 :大きな問題はなかったので、継続取組みとします。

2024年度 :達成度の○:評価できるの項目数を増やすこと。

項目	環境目標	達成度目標	次年度の環境目標			
			基準値		削減(増加)率	目標値
			2022年度	単位		
二酸化炭素排出量	電力量の削減	○	81,674	kwh	1	80,857
	ガソリン使用量の削減	○	57,159	L	1	56,587
	軽油等使用量の削減	○	372,604	L	1	368,878
	灯油使用量の削減	○	8,778	L	1	8,690
	二酸化炭素排出量の削減	○	1,175,051	kgco2	1	1,163,300
産業廃棄物量	一般廃棄物の削減	○	6,620	kg	1	6,554
	産業廃棄物の削減	○	234	kg	1	232
	建設副産物リサイクル率向上維持	○	67.59	%	向上	向上
総排水量	節水	○	188	m ³	0	186
	環境配慮工事	○	32	件	32	32
	環境苦情	○	0	件	0	0
	顧客への提案・情報提供5件維持	○	5	件	5	5
グリーン購入	事務用品	○	10	品種	10	10

8 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価並びに違反、訴訟等の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規等は次のとおりです。

法規制等名称	適用内容	遵守評価
廃棄物処理法	産業廃棄物処理業の知事(市長)の許可、処理委託契約締結、マニフェストの管理、多量排出事業者の削減計画提出・報告、中間処理実績の報告など	○
水質汚濁防止法	排水基準の遵守(県条例で久慈川河口水域、久慈湾水域に上乘せ基準あり)、事故の状況、講じた措置を知事に届出。	○
浄化槽法	定期検査の実施、保守点検及び清掃の実施	○
騒音規制法	地域指定された場所における建設作業(解体作業を含む)届出書の提出、規制基準の遵守	-
振動規制法	地域指定された場所における建設作業(解体作業を含む)届出書の提出、規制基準の遵守	-
建設リサイクル法	発注者への計画等説明と再資源化等完了報告、記録の保存	○
岩手県循環型地域社会の形成に関する条例	廃棄物の発生抑制及び適正処理並びに循環資源の循環的な利用に積極的に努める。産業廃棄物の減量等に関する計画を作成し知事に届ける。	○
岩手県環境影響評価条例	事業の実施による環境への負荷をできる限り回避し、又は低減することその他の環境の保全についての配慮が適正になされるよう努める。	○
県民の健康で快適な生活を確保するための環境の保全に関する条例	粉じん発生施設の届出、騒音に関する規制、特定建設作業の実施の届出、廃棄物の焼却の禁止、公共用水域の水質汚濁の防止、生活排水の適正な処理、健康有害物質の地下浸透の禁止、土壌又は地下水の汚染状態の届出、自動車等の駐車時の原動機の停止義務、駐車場等管理者の周知義務など	○
住民・市町村、土地改良区等との協定	処分場建設に伴う岩手県との事前協議	○

○: 遵守、-: 該当なし

環境関連法規等の遵守評価の結果、環境関連法規等は遵守されていました。

なお、関係当局よりの違反訴訟などの指摘も過去3年間ありませんでした。

9 代表者による全体評価と見直し・指示

見直し項目	評価	改善及び指示
1環境経営方針	当社業務に見合っており、取組的にも無理はなかったと評価する。	見直し不要
②環境経営目標	購入電力と燃料費は、工事量減少により減少した。一般廃棄物排出量と水使用量は、例年通りの水準に達した。	購入電力と燃料費は、工事量減少により達成はしたが喜んでばかりはいられない。一般廃棄物排出量と水使用量は、例年とおりの推移と予想される。
3環境経営計画及び実施体制	7年目に入り、取組は順調であったと評価する。	見直し不要
4その他	なし	なし
5全体評価 今年度は、工事現場、碎石場、産廃場、整備工場では大きな事故もなく日頃の成果が表れたと感じる。又、「エコアクション21」に取り組んで7年目に入り、環境活動が重要であることを再認識させられた。今後も、事業継続に環境活動は欠かせないので、従業員の意識力を高めていきたい。		

10 廃棄物業関連・組織の概要(情報公開)

事業所名	蒲野建設株式会社									
代表者名	代表取締役社長 蒲野 敦									
所在地	岩手県久慈市山形町川井第9地割32番地2									
環境管理責任者	蒲野 敦									
エコアクション2.1担当者	和蛇田 教夫									
連絡先	電話	0194-72-2211			ファクス	0194-72-2903				
	E-mail	wajata@gamano.co.jp								
	URL	gamanokensetsu								
事業活動の内容	産業廃棄物収集運搬業：民間企業からの委託収集運搬 産業廃棄物処分業：がれき類の破碎、最終処分（埋立処分） 弊社工事で発生する建設廃棄物を適正処分すると共に・建設副産物を再生砕石として再生利用する。同業社からの依頼がある場合は収集運搬・中間処理を受託する。									
事業計画の概要	建設業、採石業、産業廃棄物処分業・収集運搬業、建設廃棄物・建設副産物の処理を通じて資源循環型建設業を目的とし、低炭素社会構築に貢献する。									
事業の範囲	営業範囲：中間処理（破碎処理）・がれき類、最終処分（埋立処分）									
事業の規模	事業年度	2020 F y		2021 F y		2022 F y		2023 F y		
	売上高（百万円）	185		159		170		156		
	収集運搬量 t	1,459		366		929		1,468		
	中間処理量 t	5,226		2,361		1,462		997		
	最終処分量 t	10,458		8,700		9,235		9,180		
	従業員（名）	5		5		5		5		
法人設立年月日	昭和47年9月29日			資本金	40		百万円			
許可の内容	許可名／許可番号	年月日			事業区分、廃棄物の種類					
	産業廃棄物処分業	許可	令和6年5月9日		中間処理（破碎処理）：がれき類					
	348019968	有効	令和11年5月8日							
	産業廃棄物処分業	許可	令和6年5月9日		最終処分（埋立処分）：廃プラ、ゴムくず、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類					
	348019968	有効	令和11年5月8日							
	産業廃棄物収集運搬業	許可	令和6年5月9日		廃プラ、紙くず、木くず、ゴムくず、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類					
	308019968	有効	令和11年5月8日							
設備	設備名	能力・産廃の種類	台数			設備名	能力・産廃の種類	台数		
	破碎施設	340t/日	1							
	埋立施設（安定型）	容積	150,391m ³							
		面積	14,558m ²							
		残余容量	43,812m ³							
	保管施設（コンガラ・アスガラ）	保管上限	2,489.40m ³			積替え施設	なし			
		制限高さ	3.01m							
		上記と同じ：再生砕石	m ²			収集運搬車両	大型ダンプ	8		
		上記と同じ：制限高さ	m			収集運搬車両	10tセルフ	1		
						収集運搬車両	4tユニック	1		
						収集運搬車両	4tダンプ	2		
						収集運搬車両	2tダンプ	1		

処理方法・処理工程： 中間処理（破碎処理）：排出事業者より受入→一時保管→予め、小割圧砕機バックホウアタッチメント（コワリクン）による圧砕→受入ホッパーへ小割したがれき類を投入、（この間小割圧砕機は休止状態）、小割したがれき類を常設の一次・二次破碎機による破碎→破碎物搬送コンベア→製品ストック→搬出→再生路盤として利用。 最終処分（埋立処分）：収集先から、がれき類、廃プラスチック類、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、ゴムくず、金属くず、がれき類をダンプトラック等で受入→展開検査場で確認検査をした後→最終処分場（本施設）でバックホウ・ブルドーザー等で転圧と覆土処理して→埋立完了（施設安全・維持管理）		
廃棄物受入基準	収集運搬物・処理物	処理基準
	廃プラ	概ね15cmに破碎
	再生碎石（コンガラ・アスガラ）	粒径40mmに破碎
廃棄物の処理料金については弊社ホームページ http://gamanokensetsu に、お問い合わせ下さい。		

受託した産業廃棄物の処理量

2020年度

処理方法等	廃棄物等種類	処分方法等	処理量 t
収集運搬	汚泥		
	廃油		
	廃プラスチック		382.2
	紙くず、木くず、金属くず		134.22
	繊維くず、石膏ボード、石綿		2.85
	動植物性残渣		
	金属くず		
	ガラスコンクリ陶		19.14
	がれき類		805.9
	ゴムくず		
	混合廃棄物		

収集運搬量合計			1,344	
中間処理	汚泥	固化		
	廃プラスチック	破砕		
	紙くず	破砕		
	木くず	破砕（該当なし）	0	
	繊維くず	破砕		
	アスガラ	破砕	282	
	コンガラ	破砕	709	
	がれき類	破砕		
	ガラスコンクリ陶	破砕		
	混合廃棄物	破砕		
うち再資源化等	金属くず	資源化再生利用		
	アスガラ	再生砕石	282	
	コンガラ	再生砕石	709	
	がれき類	再生砕石	425	
	廃プラスチック	資源化再生利用		
	再資源化等量小計		1,416	
中間処理合計			991	
最終処分	（がれき類）	（安定型最終処分場）	2,618	
	廃プラ		3,851	
	ガラスコンクリ陶、金属くず			
最終処分量合計			6,469	
中間処理後の産業廃棄物	処最終	ガラスコンクリ陶	（管理型最終処分場（委託））	
		廃プラスチック		
	再資源化	汚泥	焼却、セメント原料、発酵堆肥化	
		廃プラスチック	焼却廃熱利用、熔融スラグ	
		紙くず	焼却廃熱利用	
		木くず	ボイラー燃料販売	
		繊維くず	焼却廃熱利用	
		金属くず	焼却廃熱利用、熔融スラグ等	
		ガラスコンクリ陶	焼却廃熱利用、熔融スラグ等	
		アスガラ		
		コンガラ		
		再資源化等量小計		0
中間処理後処分量合計			0	